

目 次

1 当日風景写真	1
2 記念式典・シンポジウム次第	5
3 開講 10 年のあゆみ	8
4 学長あいさつ	14
5 知事あいさつ	15
6 来賓祝辞	16
7 宮城大学からのメッセージ	17
8 国際シンポジウム	
第 1 部 基調講演 (要約)	19
第 2 部 海外パネリスト講演 パネリストによるディスカッション	20
第 3 部 共同宣言	29

開講 10 周年記念式典・国際シンポジウム

日時 : 2012 年 12 月 9 日 (日)

午後 1 時より

場所 : 兵庫県公館

1、園芸療法課程開講 10 周年記念式典 (13:00~13:50)

開式

兵庫県立淡路景観園芸学校 学長あいさつ

開講 10 年のあゆみ 写真紹介

兵庫県知事あいさつ

来賓祝辞

被災地宮城からのメッセージ

閉式

2、国際シンポジウム (14:00~17:00)

テーマ 園芸療法 NEXT STAGE へ ~これからの 10 年を考える~

1) 基調講演「これからの園芸療法 その活かし方」

山根 寛 氏 (京都大学医学部人間健康科学科教授)

2) パネルディスカッション 「これからの園芸療法を担う人たちへ

—園芸療法のエビデンスを考える—

コーディネーター

豊田正博 (兵庫県立淡路景観園芸学校/

兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授)

海外パネリスト

マーニー・バーンズ氏 (米国) (Deva Designs 社長・ランドスケープアーキテクト
・兵庫県立大学客員教授)

パトリンシア・キャシディ氏 (米国) (アメリカ園芸療法協会理事・兵庫県立大学客員教授)

ソン・キョル氏 (韓国) (韓国園芸治療協会前会長・建国大学教授)

チン・ジャン・ジュン氏 (台湾) (台湾グリーンケア学会会長・慈済大学准教授)

3) 共同宣言

兵庫県立大学副学長あいさつ

閉会の辞

園芸療法課程

開講 10 年のあゆみ

2002 年

アメリカ園芸療法協会 (AHTA) と調印 (5 月)

園芸療法分野に関する教育上の交流及び園芸療法の普及・啓発を図るため、アメリカ園芸療法協会と提携し、覚書への調印式を開催

園芸療法課程開講記念シンポジウム開催 (5 月)

9 月に園芸療法課程が開講することを記念して「しあわせのための園芸療法」をテーマにしたシンポジウムを開催

第 1 期生が入講 (9 月)

2003 年

イギリス園芸療法推進団体 (Trive) と協力調印 (2 月)

第 1 期生が終了 (8 月)

初めての兵庫県園芸療法士 16 名が誕生

第 2 期生が入講 (9 月)

2004 年

園芸療法国際サミット開催 (6 月)

淡路夢舞台国際会議場で、「花と緑、そして自然の療法的力を探る～ひょうごからの発信～」をテーマに、園芸療法先進 7 カ国の専門家が集い、国内外から 594 名が参加

第 3 期生が入講 (9 月)

園芸療法キャラバンの実施 (11 月～3 月)

全国 8 カ所で園芸療法課程説明会を開催し、469 名が参加

2005 年

園芸療法課程有識者会議設置 (7 月)

教育環境の変化への対応や教育システムのさらなる充実を図ることを目的として設置

第 4 期生が入講 (9 月)

「園芸療法教育の今後の展開に係る提言書」作成 (12 月)

有識者会議において将来の園芸療法課程教育システムについての方向性を提言

2006 年

園芸療法課程教育システム検討委員会設置 (2 月)

兵庫県立明石西公園内に園芸療法ガーデンを整備 (4 月)

第 5 期生が入講 (9 月)

兵庫県園芸療法士会設立 (10 月)

兵庫県園芸療法士間の情報やネットワークを構築し、専門家としての技能の向上や、園芸療法の情報発信と普及を目的とした「兵庫県園芸療法士会」を立ち上げ、設立総会を開催

園芸療法導入促進事業を開始 (10 月)

兵庫県園芸療法士等で組織する「人材登録バンク」を設立し、園芸療法士の斡旋、園芸療法実施経費の一部を補助する園芸療法導入促進事業を開始 (2011 年 3 月まで)

「新たな教育システムへの移行について」取りまとめ (10 月)

入講時期を 4 月に変更する等の園芸療法課程教育システム検討委員会での検討結果を取りまとめ、今後の園芸療法課程教育システムの方向性を定める

2007 年

開講 5 周年記念行事開催 (9 月)

開講 5 周年の記念行事を神戸で開催

2008年

第6期生が入講（4月）

9月入講から4月入講に移行

2009年

第7期生が入講（4月）

脳神経学的なエビデンス研究

園芸作業時の脳血流測定により、認知症高齢者における園芸療法の有効性を脳神経学的に実証

2010年

第7期生が修了（3月）

兵庫県園芸療法士が100名を超える

第8期生が入講（4月）

海外客員教授による講義（7月）

クリストス・ガリス氏をギリシアより招聘し、園芸療法特論の講義を開催

生理的ストレス指標によるエビデンス研究開始

唾液中の生理的ストレス指標測定により、園芸療法中のストレス軽減効果を確認

2011年

新カリキュラムの取りまとめ（3月）

園芸療法課程のカリキュラム検討委員会を設置し、新しいカリキュラムを作成するため有識者の意見の取りまとめを実施

第9期生が入講（4月）

新カリキュラムがスタート

日本の園芸療法ニーズに沿ったカリキュラムの改編を行い実施

園芸療法定着促進助成事業開始（4月）

兵庫県は園芸療法のさらなる定着促進を目

指した新規事業を開始

東日本大震災の被災者への支援活動

兵庫県園芸療法士会と協力し、兵庫県に避難された被災者や被災地で園芸療法による支援活動を展開

海外客員教授による講義（8月）

マーニー・バーンズ氏をアメリカより招聘し、園芸療法特論の講義を開催

就労支援事業を展開

兵庫県障害者支援課とともに農業分野での「障害者の就労支援のモデル事業」として、淡路で「就労サポーター」の養成講座を行うなど就労支援事業を展開

2012年

第10期生が入講（4月）

全寮・通学制合わせて20名が入講

米国園芸療法の視察調査（7月）

レガシーヘルスシステム（ポートランド）、カンザス州立大学等を回り、ヒーリングガーデンを視察、園芸療法調査を実施

大学間連携共同教育推進事業開始（10月）

文部科学省による宮城大学との新規事業開始

震災支援活動

被災地各地で「園芸療法を活用したストレスマネジメント研修会」を開催

開講10周年記念行事開催（12月）



開講 10 年のあゆみ写真紹介

1995 年の阪神・淡路大震災で全国から多くのご支援をいただいた兵庫県。その返礼として、“花とみどりで人を癒す”園芸療法士を育てる課程を全国の公立機関では初めて 2002 年に開講しました。

園芸療法とは農業や園芸が人の精神や身体へ与える効用に注目して、高齢・障がいなどの理由で支援を必要とする人に対して、健康の増進や生活の質の向上などを目的として行う療法です。



本校では、主として医療、福祉、教育、園芸などの学習・実践経験のある方を対象に園芸療法に必要な知識や技術を教授し、園芸療法の実践者として活躍できる能力を養います。修了者には兵庫県知事認定の兵庫県園芸療法士の資格が認定されます。



実践的学習を重視し、講義の約 50%が実習・演習などで構成されており、現在は講義 495 時間、実習 800 時間のカリキュラムとなっています。特に園芸療法関連科目を合計 8 科目設置し、園芸療法実践の基礎から応用まで深く学べるようになっています。学内には園芸療法を実践するためのモデルガーデンを設置し、五感を通じて植物と親しむデモンストレーションガーデンと高齢者や障がいのある人が無理なく園芸作業を行えるよう工夫されたレイズドベッドなどがあるラーニングガーデンの二つがあり、実践的な園芸療法の教育が展開されます。



2002 年 5 月、園芸療法分野に関する教育上の交流及び園芸療法の普及・啓発を図るため、

アメリカ園芸療法協会と提携し、調印式を開催しました。園芸療法課程の開講を記念し、「しあわせのための園芸療法」をテーマにシンポジウムが開催されました。9月、第1期生が入講しました。

2003年8月、1年間のカリキュラムを修了し、初めての兵庫県園芸療法士が誕生し、全国へと旅立っていきました。9月、第2期生が入講しました。



2004年6月、「花と緑、そして自然の療法的力を探る～ひょうごからの発信～」をテーマに園芸療法国際サミットが開催されました。9月、第3期生が入講しました。



2005年第4期生が入講し、兵庫県園芸療法士が50名を超えることとなりました。

2006年9月、第5期生が入講しました。10月、兵庫県園芸療法士間の情報ネットワークを構築し、技術の向上や園芸療法の情報発信と普及を目的とした兵庫県園芸療法士会が設立されました。現在104名の会員が在籍し、研修会や園芸療法の広報活動を行っています。兵庫県内の園芸療法の普及を目的として、園芸療法実施経費の一部を補助する園芸療法導入促進事業を開始しました。



2007年8月、第5期生が修了し、これまでで77名の兵庫県園芸療法士が誕生しました。9月、開講5周年を迎え、神戸にて記念行事を開催しました。

2008年4月、入講時期が9月から4月に移行し、第6期生が入講しました。

2009年4月、第7期生が入講しました。

2010年3月、第7期生が修了し、100名を超える兵庫県園芸療法士が誕生しました。修了式

での角帽投げは恒例となっています。



4月、第8期生が入講しました。7月、海外よりクリストス・ガリス氏を招聘し、グリーンケアに関する園芸療法特論の講義を開講しました。

2011年4月、第9期生が入講し、現在のカリキュラムがスタートしました。園芸療法のさらなる定着促進を目指した園芸療法定着促進助成事業を開始しました。8月海外よりマーニー・バーンズ氏を招聘し、ヒーリングガーデンに関する園芸療法特論の講義を開催しました。



東日本大震災への支援として、兵庫県園芸療法士会と協力し、被災地や兵庫県内避難者への花と緑を活用した支援活動を展開しました。



2012年4月、第10期生が入講しました。働きながら学べる通学制コースを新たに開講し、神戸での講義が始まりました。現在は全寮制8名、通学制12名の学生が学んでいます。



7月、米国のレガシーヘルス+システム、カンザス州立大学を回り、ヒーリングガーデンを視察、園芸療法調査を実施しました。



現在までで、125名の兵庫県園芸療法士が全国へ旅立ち、医療、福祉、教育、造園、園芸等の分野で活躍をしています。



活動の場となっているのは、特別養護老人ホームやデイサービスセンター等の高齢者福祉施設、リハビリテーション病院、精神科病院等の医療、特別支援学校や保育所等の教育施設、公園管理等の公園・造園分野です。園芸療法士専任や他職種との兼務等、働き方は様々ですが、それぞれの業務の中で、習得した園芸療法の知識・技術を活かし、活動しています。



悩むこともたくさんありますが、ゆっくりでも毎日違う表情を見せ、日々成長する植物、対象者様の笑顔、サポートしてくれるスタッフ、そして1年間、楽しいときも、辛いときも、共に過ごした園芸療法士の仲間に支えられながら、取り組んでいます。これからの園芸療法を支えていくのは私たちと、使命を感じながら。



今後の展望として、実践者と連携した園芸療法エビデンスの蓄積や海外ネットワークを利用した情報共有・人材交流を推進し、広い視野と実践力のある園芸療法士の養成と国内外に向けた情報発信を行い、日本における園芸療法の定着に貢献していきたいと考えています。

ナレーター

園芸療法課程 10 期生

栗尾知沙 渡辺正敏

学長あいさつ



兵庫県立淡路景観園芸学校

学長 熊谷 洋一

学長の熊谷でございます。兵庫県立淡路景観園芸学校の園芸療法課程開講 10 周年記念行事を開催するに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。本日、御臨席を賜りました兵庫県井戸知事をはじめ、御来賓の方々、医療福祉分野の方々、園芸療法を支援していただいている多くの皆様、そして本日の 10 周年記念行事を共催していただくことになりました公立大学法人宮城大学、西垣学長に、この場をおかりしまして、感謝と御礼を申し上げます。

兵庫県は平成 7 年 1 月に阪神淡路大震災を経験いたしました。その震災復興期において、仮設住宅生活を余儀なくされた多くの被災者の方々の心のケアと立ち直りに、花と緑が大きな役割を果たしました。また、青少年の命にかかわる数多くの事件の教訓や世界に類を見ない速さで到来する超高齢化社会などを見据えて、植物の人々の心身を癒す働きに注目した園芸療法に先駆的に取り組むべく、平成 14 年 9 月に淡路景観園芸学校に園芸療法課程を開講いたしました。

開講当初は、先進国であるアメリカ園芸療法協会の事例を参考に、教育カリキュラムを構築しておりました。その後、我が国の実情に合わせまして、医療系科目の充実、教員体制の見直し、9 月から 4 月への入学開校時期の変更などを検討し、平成 23 年度からは日本における園芸療法に適応した新カリキュラムにブラッシ

ュアップをして、再スタートをいたしました。

昨年 3 月に未曾有な被害をもたらしました東日本大震災の被災地においても、人を癒し、人と人をつなぐ花と緑の重要性はますます高まっております。本校はいち早く被災地を訪問し、仮設住宅周辺の緑化改善やフラワーアレンジメントの実技指導を行っております。また、現地で被災地支援に従事しておられる看護師、教員、公務員の方々を対象に園芸療法を用いたストレスマネジメント研修会を開催するなど、平成 18 年 10 月に発足した兵庫県園芸療法士会とも協力して、心のケアを中心とした支援活動に取り組んでおります。

本年は、開講 10 年という節目を迎えましたが、125 名にのぼる園芸療法課程修了生は、全国の医療施設や高齢者施設、障害福祉分野や園芸療法、造園分野などで広く活躍しており、感慨深く、そして心強く感じております。この園芸療法をこれまで以上に社会に普及させるためには、医療機関や福祉施設など、多くの関係者の方々と連携をして、園芸療法に対する正しい理解を得るための普及啓発に努めるとともに、エビデンスの蓄積を進め、園芸療法の未来は兵庫が担っていると言われるように尽力してまいりたいと存じます。皆様のさらなる御支援と御協力お願い申し上げます、私からの御挨拶といたします。

知事あいさつ



兵庫県知事 井戸 敏三

園芸療法課程を設けましてから10年が経過いたしました。もともと、淡路景観園芸学校は、阪神淡路大震災の後、花・緑が人々の心を癒す効果に着目しまして、景観と園芸を合わせた学校としてスタートをいたしました。その過程の中で、園芸療法を本格的に学んでいただき、そして実践に役立てていただくコースをつくるのが課題になりまして、海外の園芸療法コース等を参考にさせていただきながら開始をしたというのが園芸療法課程の始まりでございます。800時間の実習を積んで、兵庫県として園芸療法士の認定をさせていただいております。全国各地で活躍されている園芸療法士も随分出てきております。これは頼もしい限りだとこのように考えております。

この節目の年に、これからの10年をどうするかというのを議論していただくには、本当にふさわしい機会だと思います。4人の海外講師をお招きすることができましたし、大学間連携をさせていただいております宮城大学から西垣学長先生がお見えになっていただきました。将来の両校の連携について、具体的なお提案があるのではないかと期待をさせていただいております。

東日本大震災の被災地に園芸療法士会の皆さんと先生方と出かけていただき、園芸を通じた癒しをしていただき、随分地元で喜ばれた

と承知しております。それがきっと宮城大学との関係にも結びついていったし、また大きな花を咲かせてくれるのではないかと期待をしておるところでございます。

私は、園芸療法とは園芸という営みを通じて、心を癒していく療法であると思うのであります。しかし、園芸と一口に言いましても、非常に広いということが言えます。その広さを対象の方々にマッチさせていくスタイルをどのように確立していくか、これがきっとこれから問われていくと思います。常にエビデンスが積みまわってまいりますけれども、私は、因果関係が少々わからなくても、効果があることをやればいいと割り切っております。効果があるのがいいことだというぐらいの開き直りをこれから見せて、ケアを必要としている人に応じた対応を確立していただければ幸いです。効果があるのがよいことだというぐらいの開き直りをこれから見せて、ケアを必要としている人に応じた対応を確立していただければ幸いです。効果があるのがよいことだというぐらいの開き直りをこれから見せて、ケアを必要としている人に応じた対応を確立していただければ幸いです。

10年にちなみまして、歌を一つつくりました。

「人々の心を癒す園芸を通じてケア、担い手10年」

園芸療法課程のますますのこれからの発展を祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。おめでとうございます。

来賓祝辞



兵庫県看護協会

副会長 中野 則子

10周年本当におめでとうございます。平素から看護協会では実施しております町の保健室や看護フェアで、淡路景観園芸学校の先生方やそれから園芸療法士の皆様には、大変御支援、御協力をいただいておりますことを、厚くお礼申し上げます。

町の保健室と申しますのは、阪神淡路大震災の復興住宅で被災者の方々が安心して気軽に心身の健康相談や介護相談、そして子育て相談を受けていただく場でございます。兵庫県の御協力もいただきまして、今、県下に585カ所開設をいたしております。ボランティアナースが活動しております。そういう活動を通しまして、これからの少子超高齢社会の中で、誰もが安心して健やかに生活できる地域づくりが求められていることをひしひしと感じております。そういう地域づくりの中で、園芸に対する関心やニーズが非常に高まっております。

私自身、但馬で育ちまして、草花、山といった自然が非常に好きでございます。我が家の小さい庭では四季を通じて、花や木などができるだけ見られるように、また、春と秋にはプランターの植えかえをいたしまして、非常に楽しんでおります。そういうことをしているときは、園芸が自分の生活の質を高めているということは余り意識をしないのです。けれども、私は阪神淡路

大震災の際に仮設住宅で被災者の高齢者の方がプランターに花を植え、鉢植えの花に水をやる中でやっと日常生活が戻ってきたと笑顔を見せてくださったことが忘れられません。また、東日本大震災で避難を余儀なくされた被災者の方の中には野菜づくりをされている方もいらっしゃいます。野菜づくりを通して、被災前の日常生活が戻ってきたという光景を見まして、園芸というのは私たちの生活の質を高め、そして地域のコミュニケーションを育んでいるのだなと実感しております。

東日本大震災の支援を淡路景観園芸学校も続けられていると聞いております。当協会も昨年は救護所、医師会の先生方と救護所での医療活動、避難所での健康生活の支援、それから保健師さんたちと仮設住宅の訪問を進めてまいりましたが、今年は県と一緒に、町の保健室を宮城県へつくるための支援を続けております。これからも園芸療法士の方々、淡路景観園芸学校の先生方と御一緒に支援活動を続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。最後になりますけれども、淡路景観園芸学校がこれからますます発展をされ、そして園芸療法士の活動が園芸の絆を全国へ広めていただくことを祈念いたしまして、御挨拶といたします。

被災地宮城からのメッセージ



公立大学法人宮城大学

理事長・学長 西垣 克

私どもは昨年、震災に遭遇し、どのようにして復興していくかということで活動を続けてまいりました。その中で、井戸知事様を先頭として、淡路景観園芸学校並びに兵庫県立大学の皆様方が早い時期から我々のところに来ていただいております。なおまだ復興の道のは遠いという中ではありますが、我々が一つの未来に対して明るい希望を持って進めていけるのも、ひとえに兵庫県の皆様方、知事以下の御努力をありがたく頂戴したおかげだと思います。

現地で今、被災者の憂いという、秋の短い東北に吹く2つの風でございます。一つは被災地の風化という風。それから原発。被災地産物の風評という風。この2つの風が吹いております。それと、このごろは仮設の方々が「先生、いろんな人が来るのを断ってくれないかな」と言うのです。地元の方々は本当に東北の純朴な方々なので、応援に来ていただいた方に「ありがとうございました。元気をおかげさまでいただきました。」ってお礼言うのですね。ところが我々、身内として地元を回ってみますと、全然元気がないのですよね。元気をもらい疲れというのが、今、はやっております。

園芸療法の皆さん方には、仮設の中でいろんな活動をしていただきました。これが口の重いおばあちゃんたちにどれくらいの力になっているのかというのは、はかり知れないと思います。決して、おばあちゃんたちは、兵庫県から来た方々に元気をいただいたとは言わないのです。一緒に植えた花がきれいだなと、これで僕はいいと思っています。戦後60年、繁栄を目指してきた我が国が、新しい我々の生き方というものを、この震災の中から学んでいく必要があるだろうと思っています。

宮城県の村井知事も兵庫県の井戸知事も社会の仕組みを変えるという方向性で、今まで汗をたくさんかいてこられました。そういう意味では、日本という国が再生していくためには、まさに地域の我々が立ち上がっていくしかないだろうと。それで文科省の支援をいただきまして、この園芸療法やグリーンケアを土台にして、新しいコミュニティプランナーを養成するスクールを立ち上げます。この先駆的な兵庫県でなさっていただいたカリキュラムや学校のマネジメントのノウハウを私ども宮城県のほうは、これから大いに学ばせていただいて、今度は兵庫と宮城の両方で新しいコミュニティプランナーという人材、そのツールとしての園芸療法というものを今まで以上にパワーアップして推進していくということをかたく決意を申し上げまして、また、この先駆的な淡路景観園芸学校が日本一、世界一に発展することを切にお願い申し上げまして、私の御挨拶とさせていただきます。